



『軍事のリアル』

富澤暉

中朝の軍事的脅威に狼狽する前に踏まえておくべき軍事の現実が、本書には詰まっている。

北朝鮮の核危機に対し、日本はミサイル防衛体制の拡充に余念がない。集団的自衛権に関する議論でも、「アメリカに向かうミサイルを日本が撃ち落とす」との事例が挙げられた。



新潮社 821円(税込)

目からウロコの名著『逆説の軍事論』(パシリコ)では、猪木正道特別賞(日本防衛学会主催)を受賞している。

だが、筆者はこう呟いたという。「こんなこと、できっこないよ」また、日本を守る備えについても、その限界を知るとともに、核の被害を軽減するための「核シエルト」の準備が必要だと説く。〈こうした準備は国民一人一人の意志とその要求によって初めて実現するものである〉

軍事には、過剰なアレルギーも過剰な期待も邪魔な存在だ。同盟国アメリカの安全保障政策でさえ絶対的なものではなく、ここ数年のうちに対中戦略は大きく変化している。本質を見抜く目を持たねばなるまい。元陸幕長による貴重な「講義」だ。



集英社 1728円(税込)

2011年の大阪府知事選に密着したドキュメンタリー映画『立候補』は、本書の補完になるだろう。

『黙殺 報じられない、無頼系独立候補たちの戦い』 畠山理仁

副題の無頼系独立候補とは、いわゆる泡沫候補のこと。マック赤坂のような有名人から、ほぼ無名の候補まで目を配り、彼らが行動した理由、政見放送や演説で何を語り、選挙活動で何を訴えようとしているのかを密着取材。人物ルポとしてとてもおもしろいが、一読後、選挙戦と選挙報道を見る目、そして自身の一票を考え直すことになるはず。

『中国に勝つ 日本の大戦略』

北野幸伯

「『反日統一共同戦線』を作ろう。そしてその戦線にアメリカも引き入れよう」——中韓露が、国際会議でこう話し合ったのは二〇一二年のこと。以来、中国は日本の孤立を目標と目論み、韓国とタッグを組む「海外歴史戦」もこの戦略の一部。今後、どうやって中国の野望を打ち砕くべきか。在露歴二十七年の著者が、「日本が二度と負けない方法」を伝授する。



育鷗社 1728円(税込)

アメリカが籠絡される寸前、安倍総理が待ったをかけ、戦線構築を無力化。しかし、安心してはいられない!

『浮き世離れの哲学よりも憂き世 楽しむ川柳都々逸』

坂崎重盛

現代日本でもまだ生き残っている川柳と、日常生活から姿を消しつつある都々逸。制限された文字数から男女の行為や心理、そして生きた人生哲学が味わえる日本の貴重な文化遺産を、粹人・坂崎重盛氏がたっぷり紹介。末尾には引用された川柳、都々逸、狂歌、短歌等の索引もあり、いくつか覚えて、何かの挨拶で披露してみては?



中央公論新社 1836円(税込)

小誌連載「へたな哲学、心理学より川柳、都々逸」に大幅加筆と構成の変更を行った1冊。

『脱』戦後のすすめ』

佐伯啓思

気鋭の思想家による珠玉の現代文明論。話題は憲法、領土問題、グロバリズムなど多岐にわたるが、どの批評も的確かつ、辛辣だ。〈変動やら変革やらといいながら、われわれは決して先に進むことなく、同じような場所にあつて、ただただ右往左往して動揺しているだけではないか〉。世界が大きな転換期を迎えているいまこそ、読むべき一冊。



中公新書ラクレ 842円(税込)

本書は雑誌『表現者』に掲載された論考(2010~2017年)をまとめたもの。